

繁殖北限域におけるサシバの分布とその要因について

- 予備調査から見えてきたこと -

熊谷 徹¹・ 田原一平²・ 東 淳樹² (¹岩手大院・農、²岩手大・農)

【背景・目的】サシバ *Butastur indicus* は、繁殖のために日本の里山に飛来する夏鳥である。本種は繁殖期には北海道・青森県以外の全国で分布するとされている（環境庁 1999）。これまでに青森県で1つがいの繁殖が1例報告（日本野鳥の会弘前支部 1986）されているのみであることから、秋田・岩手の両県は、繁殖期における分布北限域であると考えられる。分布北限を制限している主要因は育雛期における餌資源量であると考えられるが、それは気温や温量指数等の気候的要因と関係が強いことが予想される。生息制限要因を解明することは、本種の繁殖に必要な環境条件を提示できるとともに、渡りの究極要因の解明についてのアプローチにもつながる。しかし、東北地方においては本種の詳しい生態が研究された例はなく、特に分布北限域における生息分布や生息環境についてほとんど明らかになっていない。そこで我々は、本種の分布北限域における生息分布の把握、繁殖期における採餌生態と餌資源の解明、GISを用いた気候や地形、土地被覆など環境要因の広域的な解析を実施し、分布北限域における生息制限要因を解明するための研究を開始した。今回は、今春（2006年）実施した予備的調査の結果について報告を行なうとともに、今後の研究の方向性について議論し、今後の研究の参考としたい。

【生息分布調査と分布図の作成】サシバは林に水田が入り込んだ里山環境で繁殖し、水田に面した林縁にとまって採餌することが知られている。そこで、繁殖期である5月上旬から7月中旬にかけて、岩手県内の里山環境において、林縁に沿って自動車または徒歩で移動しながら飛び立つ個体を確認する方法で調査を実施した。調査期間中全地点を3回以上踏査し、本種が確認された場合にはその行動を観察し、おおまかな営巣場所を特定するとともに、踏査ルートと観察地点をGPSに記録した。調査地として、岩手県北西部の雫石、盛岡市玉山、岩手県中部の北上、岩手県南部の一関東部（川崎・花泉）を設定した。今回の調査では23ヶ所で計29羽のサシバが確認された。そのうち27羽が岩手県中部と南部で確認され、繁殖可能性が高いと考えられる地点は15ヶ所で、そのすべてが岩手県中部と南部であった。

【餌資源量調査】サシバが多く確認された岩手県中部の北上と今回の調査では少数しか確認されなかった雫石、盛岡市玉山の3地域において、本種の主要な餌資源であるカエル類、昆虫類、ネズミ類の現存量調査を実施した。カエル類については1地域につき5ヶ所の定点における畦畔センサス調査を行ない、30分間に確認されたカエル類の種と個体数を記録した。その結果、雫石・盛岡市玉山と比較し、北上の個体数が多く、特にトウキョウダルマガエルに大きな差が認められた（図1）。昆虫類とネズミ類については調査方法に不備があり思わしい結果は得られなかった。

秋田県では、岩手県北西部の雫石、盛岡市玉山と同緯度の地帯で本種の生息密度が高いことが我々の予備調査で確認されている。岩手県で北限域が低緯度であるのは、繁殖期における北東からの冷たい季節風（やませ）により、餌種の発生時期が遅れることと、発生量が少なくなるためではないかと我々は考えている。今後、北限域の分布調査を継続しながら、生息制限要因と気候との関係を検証していきたい。

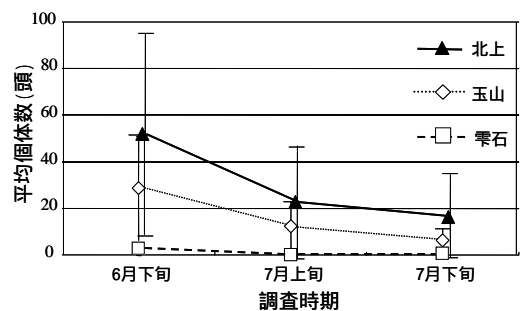


図1 3地域におけるトウキョウダルマガエルの個体数推移
エラーバーは標準偏差を示す